

NOW IS.

宮城は現在も
いま
現実に
立ち向かう。

2019.4.11

Vol.
36
April, 2019

ナウイズ
毎月11日発行

犬山紙子

in 七ヶ浜・多賀城



「このイヤリングをするたびに、今日の気持ちがおよみがえりそうですね」と犬山さん。

「想い」と「癒し」を知る一日。

エッセイスト犬山紙子さん

津波の傷を癒すアクセサリー。
「わぁー潮の香りがー。春の気配を感じるこの日、エッセイストの犬山紙子さんと訪れたのは七ヶ浜町、松島湾の展望スポット「多聞山」からスタートしました。「むかしは『日本三景？ふぐん』くらいしか思わなかったけど、この歳になって来てみると、しみじみいいなあ。子どもの頃から20年以上上宮城で過ごした犬山さん。現在は結婚し、東京でご主人と7歳になるお子さんとともに3人で暮らしています。「子どもにも見せたい」と優しい目で話します。遊覧船が行き交う松島湾を見ながら次に向かったのは「SHICHINOCAFFEE&PIZZA」。カフェの一角で「シーグラスを使ったアクセサリーを販売している」と耳にし、足を運びました。「シーグラス」とは、砂浜に打ち上げられたガラスの欠片のこと。長い時間をかけて波や砂にもまれることで角がとれ、丸い宝石のような風合いになります。まるで海の欠片みたいだなと思っただけです」と話すのは、

シークラスアクセサリーを手掛ける「Seven beach manna」の佐藤あゆみさん。佐藤さんは結婚して七ヶ浜に嫁ぎ、ご主人と2人のお子さんとも暮らしています。「東日本大震災後、ずっと海に行けなくて。でも子どもたちまで海から遠ざけてしまっただけじゃないかと思って、5年たってようやく砂浜に行っただけです。恐ろしい津波のイメージで覆われていた砂浜は、行ってみるととても美しくなりました。佐藤さんは言います。「海を見ているうちに涙が出てきてしまっただけで、娘が差し出してくれたのがシークラスだったんです。宝石みたいで、海がよく来たねって言ってくれたように思えたんです。シークラスに魅せられた佐藤さんは、砂浜に通うようになり、最初は自分のお守りにしようとしてアクセサリーをつくり始めましたが、娘、友達と徐々にファンが広がり、今では鎌倉の雑貨店でも扱われるようになりま



「シーグラスの石言葉は、絆、生命力なんです。ぴったりですよ」と「Seven beach manna」の佐藤あゆみさん。

孤立を防ぐ
あなたがい居場所。
「アクセサリー一つに、とっても深い想いがありましたね」と話しながら、次に向かったのは「七ヶ浜みんなの家 ぎずなハウス」。震災直後から支援に入った愛知県のNPO法人「レスキューストックヤード」が運営している七ヶ浜の人たちの交流の拠点です。震災からの復旧がひと段落した時点で、宮城県での活



「Seven beach manna」さまざまなかたちのシーグラスを使ったヘアゴム、イヤリングやピアスなども並びます。

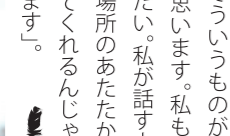
した。ブランド七ヶ浜にも認定されています。「今では、海の美しさや豊かさに感謝して、ますます向き合えるようになりました。震災の時のイメージのままに人に手に取ってもらい、今はもうキレイな風景があるんだと気づいてもらえたら」と佐藤さん。犬山さんは「シーグラスも、いろいろなことを乗り越えてこの浜にやってきた。佐藤さんの海に対する想いと、通じるところがあるような気がします。震災の傷に寄り添ってくれるアクセサリーじゃないかなと思います」。



「懐かしい！ここは小学生のたまり場になりました」と駄菓子コーナーで歓声を上げる犬山さん。

PROFILE

犬山 紙子
いぬやま かみこ
1981年大阪生まれ。子ども時代、学生時代を宮城で過ごし、仙台の出版社でファッション誌の編集を担当した。2011年『負け美女ルックスが仲間になる』を出版し、その後はコラムニスト、エッセイストとして活躍。情報番組のコメンテーターとしても知られる。



沼田佐和子

「今」の心に 寄り添う七ヶ浜。



動を終える団体も多い中、「レスキューストックヤード」は子どもたちからの強い願いを受け、残留を決めました。「5年を契機に七ヶ浜を離れようという話が出ていたのですが、それを聞いた子どもたちが、私たちに残ってほしいと署名活動を始めたんです」と経緯を話す七ヶ浜スタッフの横田順広さん。「震災からしばらく、親も先生もバタバタしているなか、子どもたちには思い切り遊べる場所がありませんでした。そんな時期、うちで活動していたボランティアの学生たちが、目いっぱい子どもたちと遊んでくれたんです。それが、子どもの心に残っていたんだと思います。現在は「ぎずなハウス」を拠点に、駄菓子店やカフェなどを運営。子どもも大人も巻きこみ、イベントやお祭りも行っています。「ここはたまり場になりそう！」と駄菓子スペースを見た犬山さん。子どもだって、心に辛い想いを抱えているんです。でも子どもって大人に遠慮するじゃないですか。こういう場で孤立せず、寄り添ってくれる大人がいるって、とっても尊いことだと思えます。親としても、とっても有難いと思って！」

「七ヶ浜には、想いに寄り添ってくれる場所やモノがあるんですね」と犬山さんは一日を振り返ります。「私は今、児童虐待の防止に向けた活動を行っているのですが、一番問題なのが、だれも自分を分かってくれないと孤立してしまうこと。シークラスのアクセサリーみたいに、辛い気持ちに共感してくれるモノだったり、ぎずなハウスみたいに、交流の拠点や居場所だったり、そういうものがとても大切だと思っています。私も家族を連れてきたい。私が話すより何倍も感じてくれるんじゃないかなと思います」。



「七ヶ浜みんなの家 ぎずなハウス」で七ヶ浜のキャラクター「ぽっけのポーチちゃん」を模した「ポーチちゃん焼き」を頬張る犬山さん。

七ヶ浜・多賀城 DAYOUT

SHICHIGAHAMA & TAGAJO

七ヶ浜・多賀城で
休日さ

七ヶ浜町は、豊かな自然環境に恵まれた漁師町。旬の魚介類や皇室献上の乾海苔のグルメ、海水浴場や七ヶ浜国際村など、観光面も充実。多賀城市は、縄文時代の古墳や多賀城跡など、多くの文化財に恵まれた町。西行や松尾芭蕉らの歌人もこの地に憧れました。

多間山
松島四大観のひとつで、松島湾内の島々が広がるその雄大な眺めは美観(尙観)ともいわれる景勝地。

東日本大震災震災慰霊碑
蓮の葉の台座の上に手を合わせ祈る姿がイメージされています。

SHICHI NO RESORT
オーシャンビューのホテルとカフェ。詳しくはNOW IS.21号(2018年1月号)をご覧ください。

七ヶ浜町 観光交流センター
七ヶ浜みんなの家きずなハウス

七ヶ浜町 歴史資料館
七ヶ浜国際村

多賀城史遊館
考古資料などの展示のほか、まが玉づくりや火起こしなどの体験学習を行うことができます。

末の松山
枕歌として有名な小山。貞観地震の津波がこの小山を超えなかったことから、津波の教訓を伝える和歌の研究が進められています。

七ヶ浜みんなの家きずなハウス
2017年7月、七ヶ浜町生涯学習センター敷地内にリニューアルオープン。駄菓子やコーヒー、ブランド七ヶ浜認定の「ポーちゃん焼き」などがあり、町の交流スペースとして気軽に立ち寄れる憩いの場を提供。地域住民の自主的な活動を応援する取り組みもしています。

Seven beach manna
海の宝石と呼ばれる「シーグラス」。七ヶ浜の砂浜に打ち上げられた海からの贈り物として、自然の形や色をそのまま使用し、アクセサリーにしています。2018年7月、七ヶ浜町から「ブランド七ヶ浜」に認定。七ヶ浜町の「SHICHI NO CAFE」などで取り扱っています。

七ヶ浜町観光交流センター
七ヶ浜町の観光案内情報発信基地として2018年11月にオープン。「七ヶ浜町観光交流センターに行きたい」という観光客の方に「みやぎ環境交付金」を活用し購入した電気自動車で「多賀城駅から観光交流センター」までの無料送迎を行っています(1回4名まで30分程度、要予約)。

食べる
買える

Support Power

PROFILE

七ヶ浜町 復興推進課
よねづ まさとし
米津 政俊 さん
神奈川県より七ヶ浜町に派遣

the 応援職員

NOW IS.

七ヶ浜・多賀城

Shichigahama・Tagajo



「この町で、生まれて初めてのクリケットを経験しました」と話す米津さん。



葛蒲田海岸にて。ビーチウォーキングなど多様なイベントが開催されています。



「災害派遣職員として採用され、派遣希望地を聞かれた際、「住民の顔が見られる場所がいいです」と希望したんです」と話す米津さんは、一人ひとりしっかりと支援したいという思いがありました。そうして決まった派遣先は、東北で面積が一番小さい七ヶ浜町でした。米津さんが兵庫県からの災害派遣職員として七ヶ浜町に来たのは2013年。5年の任期満了を迎える時、もっと復興業務に従事したいと、神奈川県に災害派遣職員に応募し、採用。現在も七ヶ浜町で業務を続け今年で7年目です。支援を続けたいと思う原動力は何かと聞くと「被災した自分だからこそ、できることがあるのではないかと」思っています。

神戸市出身の米津さんは、大

「災害派遣職員として採用され、派遣希望地を聞かれた際、「住民の顔が見られる場所がいいです」と希望したんです」と話す米津さんは、一人ひとりしっかりと支援したいという思いがありました。そうして決まった派遣先は、東北で面積が一番小さい七ヶ浜町でした。米津さんが兵庫県からの災害派遣職員として七ヶ浜町に来たのは2013年。5年の任期満了を迎える時、もっと復興業務に従事したいと、神奈川県に災害派遣職員に応募し、採用。現在も七ヶ浜町で業務を続け今年で7年目です。支援を続けたいと思う原動力は何かと聞くと「被災した自分だからこそ、できることがあるのではないかと」思っています。

学生の時に阪神・淡路大震災で被災。卒業後は民間の建設コンサルタント会社で、兵庫県の震災復興土地区画整理事業に携わります。その後、NPO法人で語り部の活動を続けながら、大学院で復旧後の町の新旧コミュニティの研究をして修了し、まちづくり協議会で復興事業の成果をまとめるカルテを2年かけて作成している時、東日本大震災が起きました。カルテ作成終了後、神戸市の公社で東北への長期的支援を模索していたところ、兵庫県の災害派遣職員の募集を見つけ、現在に至ります。

「相談に来られた方が、再建していく姿を見るとうれいですが、やりがいを感じます」と話す米津さん。七ヶ浜町では、防災集団移転促進事業に係る交渉・契約、物件の補償、土地区画整理事業の換地処分などの業務に携わっています。町民が内に秘めた悩みを話してくれた時もありました。最後まで支援を続けたいという意思は日々強まっています。これまで、民間企業やNPO法人、行政と、さまざまな形で復旧・復興に携わってきました。任期が終わっても、どんな形でもいいので七ヶ浜町に関わり続けたいです。私なりのサポートを続けていけたら」と米津さんは話してくれました。

七ヶ浜町と関わりを持ち続けていきたい。

info/area

{エリア情報} 復興や防災にまつわるニュースをお伝えします



写真提供: VisitFinland. 撮影者: Antti Pietikainen/Harriniva

七ヶ浜国際村インターナショナルデイズ2019 「もい！フィンランド」

幻想的なオーロラや森と湖に恵まれた豊かな自然、子どもたちが大好きなサンタクロースやムーミン、充実した福祉制度など「フィンランド」の魅力を余すところなくご紹介いたします。ゴールデンウィークは是非、七ヶ浜国際村へ！

- 日時: 5月3日(金)~5月5日(日) 10:00~16:00
- ※5月3日のみオープニングセレモニーを9:50から開催します。
- 場所: 七ヶ浜国際村
- 料金: 入場無料(公演・体験などは一部有料)
- ☎022-357-5931(七ヶ浜国際村)

市道「史都中央通線」開通記念TAGAYASUプロジェクト 和太鼓×書道パフォーマンス~不易流行~

JR仙石線多賀城駅と文化センターをつなぐ歩行者専用道路の開通を記念し、「おくのほそ道」の旅路で松尾芭蕉が到達した不易流行をテーマに、和太鼓と書道が融合したパフォーマンスを開催。出演は、和太鼓グループAtoa、書家の亀井勤氏、地元高校生。先着順でオリジナル缶バッジプレゼントも。

- 日時: 4月21日(日) 11:00~12:30(10:30受付開始)
- 場所: 史都中央通線沿い屋外特設会場(多賀城市役所正面駐車場内)
- 料金: 入場無料・出入自由 ☎022-368-1141(多賀城市役所市長公室市民文化創造担当)



今月のガイド

MONTHLY GUIDE

NPO法人
レスキューストックヤード七ヶ浜スタッフ
いしだ ゆうこ
石木田 裕子 さん



レスキューストックヤードは「コミュニティスペースの運営だけでなく、世代間交流を通じた地域の支え合い・生きがいを創出する」の復興事業や、「きずなネットワーク」という住民主体の活動を応援する地域活動ネットワークの支援などの取り組みも行っていきます。

「親子防災ワークショップも行っていきます。子どもたちには、小さいうちから防災意識を育て、生きる力を育んでもらいたいんです」と石木田さんは話します。「子どもたちがキッズ防災士のような存在になって、大人たちを引っ張って行けるようになってもらいたいですね。震災で学んだことを生かすことが、私たちの使命だと思っています。」

取材 こぼれ話 VOICE FROM STAFF

動き続けること、
変わり続けること。

「NOW IS.」も今号で丸3年。どんどん変わる「今」を感じられるのは、この時代を生きる私たちの特権だと思います。今回訪れたSHICHI NO RESORTも変わり続ける場のひとつ。海が見えるカフェで人気を集めています。今年にはママの癒しの場としてヘッドスパ自慢の美容室をオープンするそう。きずなハウスで駄菓子を買って、カフェでおしゃべりして、ヘッドスパなんて、七ヶ浜がもっと、家族連れにうれしいエリアになりそうです。



やることがあれば、
いつまでも元気で
いなくちゃいけないでしょ



(上)生き生きと編み物を
楽しむグランマたち。
(左)「Yarn Alive House」
は台湾やその他の国々、
日本国内からの寄附で花
洲浜に建設されました。
(右)グランマたちの手
でつくられる編み物たちは、
世界中の方々から届いた
毛糸でつくられています。

世界の困っている人々へー
七ヶ浜のグランマからの贈り物

東日本大震災の津波により、七ヶ浜町では多くの建物が流失。大勢の方が避難所や仮設住宅での生活を余儀なくされました。そんな中、高山外国人避暑地に暮らすティ・サーカさんの頭に、友人からのある話がよぎりました。「阪神淡路大震災のとき、将来を悲観して自殺してしまったお年寄りがいたそうなんです。それは絶対に起こってはいけなかった。だから、私は友達と避難所をまわって、グランマ(=年配の女性)たちに『編み物をしない?』って聞いて回ったんです。私の祖母も母も編み物が大好きで、私も5歳のときから編み物をしていてね。私の母は、よく祖母に『今日は、これとこれを編んでね。ほら、仕事がいっぱいだからいつまでも元気でいなくちゃいけないでしょ』って言ってた。だから、避

難所のグランマたちにも何か“やること”が必要だと思ったんです」と、ティさんは当時を振り返ります。

震災後、オハイオ州にあるティさんの実家には、近所の人たちが義援金を届けてくれました。それを受け取ったティさんのお母さまは、義援金と一緒にたくさんの毛糸をティさんに送ります。こうして、毛糸(=Yarn)を使って人々が生き生きする(Alive)グループ「Yarn Alive(ヤーン・アライブ)」が立ち上がったのです。

「編み物、全然やったことないんだけど…」そう言いながらも、次々集まってきたグランマたち。お互いに教えあひながら、次々にひざ掛けや帽子などを編み上げていきます。ティさんは、それらを気仙沼の子どもたちや熊本地震の被災者へ贈りました。さらには、ネパールやヨルダンのシリア難民キャンプにも贈りました。シリア難民の子どもたちが目を輝かせて身に着けている

帽子を見て「これ、私のよ!」と喜ぶグランマたち。こうして、編み物をするのが、七ヶ浜のグランマたちの生きがいとなっていきました。

活動の様子が、アメリカの「ウォールストリート・ジャーナル」やNHKなどで紹介されると、日本のみならず世界中から毛糸が送られてくるようになりました。「そのときは、私の家が毛糸でいっぱいになっちゃって。どこか毛糸を保管できる場所と、仮設住宅を出たみなさんが集まれる場所がほしくて。それで、この場所に『Yarn Alive House』を建てたんです」と、ティさん。実は、居住禁止区域にこうしたコミュニティスペースができるのは、宮城県初のこと。「かわいくなっちゃ、気分が上がらないでしょ。だから、外観は赤。内装は、七ヶ浜の海の色なの。かわいらしい雰囲気の中で、今日もグランマたちは楽しそうに、遠くの誰かを思って編み物をしています。

▶高山外国人避暑地とは?

七ヶ浜町は、大部分が海に面する海洋性気候で、夏は涼しく冬は暖かく、降水量・降雪量も少なく過ごしやすい町です。「山の軽井沢、湖の野尻湖、海の高山」と言われ、日本三大外国人避暑地と称されています。松林に囲まれた高台に避暑地があり、夏になると隣接する表浜は多くの外国人でにぎわっています。



※表浜は現在、遊泳禁止です。



PROFILE

Yarn Alive(ヤーン・アライブ)

ティディ・サーカ さん

アメリカ・オハイオ州出身。宣教師の夫とともに、1975年に来日。2011年6月に「Yarn Alive」の活動を開始。現在は一般社団法人化し、日本のみならず世界中の被災地や福祉施設などに七ヶ浜のグランマたちの手編みのニットを届けている。

NOW IS. 36

発行:2019年4月11日 宮城県震災復興本部(事務局:震災復興推進課)
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel:022-211-2408 Fax:022-211-2493

「復興情報発信プロジェクト NOW IS」は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

宮城県 Miyagi Prefectural Government

INFORMATION from MIYAGI

〔宮城県からのお知らせ〕

01 「みやぎ・復興の歩み8」を発行しました

「みやぎ・復興の歩み8」は、震災からの8年間の県内の復興状況や、復興に向けて取り組んでいる方々の想いなどをとりまとめた冊子です。

ウェブサイト「みやぎ復興情報ポータルサイト」で公開しているほか、震災の記憶の風化防止の為、イベント等で配布していただける方には無料で郵送*致します。ぜひご覧ください。

*冊数によっては着払いで対応させていただきます。

詳細は

みやぎ復興情報ポータルサイトで検索

県震災復興推進課

☎022-211-2408



02 地域コミュニティ再生支援事業
～平成31年度事業の募集～

県では、被災地における住民主体のコミュニティ再生に向けた活動を支援します。

- 対象/災害公営住宅等に新たに設立された自治会等の住民団体
災害公営住宅等の住民の受け入れ先となった既存の自治会等の住民団体など
- 対象事業/
①地域コミュニティ再生支援事業補助金
:地域住民で組織する団体が行う、地域コミュニティ再生活動に対して、その経費を補助
②地域力再生活動アドバイザー派遣事業
③被災地域リーダー等研修・交流事業
- 募集時期/平成31年5月、6月、8月、10月

県地域復興支援課

☎022-211-2424

http://www.pref.miyagi.jp/site/hukkousien/komyu.html



MEDIA INFORMATION

みやぎ復興情報ポータルサイト
みやぎ復興情報ポータルサイトはコチラから!
https://www.fukkomiyaagi.jp

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報を
ブログで!

今月のブログピックアップ

宮城発!
元気と食の
最新情報

一般社団法人
IkiZen

震災復興に軸足を置き、被災地の企業の販路開拓や商品開発、広報活動支援などを行っています。



これまでNOW IS.や復興レポートで紹介した名取市の閑上水産加工団地の「魚匠 鈴栄」。今年4月、名取川沿いにオープン予定の新たな商業施設「かわまちてらす閑上」にも出店します。「魚匠 鈴栄」の小山さんに、ちりめんのお話や商業施設での新たな取り組みなどを伺いました。

語り部が
本当に
語りたこと



宮城県には、東日本大震災での体験や得られた教訓を多くの人に伝えたいと、語り部活動が各市町で行われています。このブログでは、語り部が本当に語りたことを紹介します。

仙台市で、七郷の歴史や風土、震災を語り継ぐ活動を続けている、七郷語り継ぎボランティア「未来へー郷浜」のみなさんにインタビューさせていただきました。震災前から地域の歴史について勉強会を開いてきたみなさんが、本当に伝えたいことをお伺いしました。

詳しくは、「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧ください。

- いまを発信! 復興みやぎ SNS「いまを発信!復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiyaagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。
- NOW IS.メールマガジン NOW IS.の発行日(土日・祝日のときは翌平日)にメールでお知らせします。 NOW IS.メールマガジン で検索して登録!

宮城の「今」を発信
仙台放送
震災の伝承や
防災・減災に取り組む
活動をご紹介します。

東北・みやぎ復興マラソン2019
復興の「いま」を体感できるマラソン大会

今年で3回目となる「東北・みやぎ復興マラソン2019」を10月12日(土)と13日(日)に開催します。コース全域が震災による津波の浸水域で、走りながら被災地である名取市、岩沼市、亶理町の復興状況を体感できます。コースの高低差が10m以下とアップダウンが少なく、初心者でも走りやすくなっています。今年は、2kmキッズランの新設や募集人数を拡大した種目もあります。みなさんのランが被災地の元気につながります。*エントリー受付中(～7月22日(月)23:59まで)



©東北・みやぎ復興マラソン

2019.4.11

Vol.

36

April, 2019

ナウイズ
毎月11日発行

宮城は現在も
いま
現実に
立ち向かう。

NOW IS.



Yarn Alive

テ
デ
イ
・
サ
ー
カ

七ヶ浜のگرانマたちに、 編み物で「生きがい」を。

日本で三番目に古い海水浴場・菖蒲田浜を有し、多くの海水浴客でにぎわう七ヶ浜町。ここには、アメリカ人宣教師らが開発した高山外国人避暑地があり、夏になると多くの外国人でにぎわいます。

そんな高山外国人避暑地でセミリタイア生活を送っていたのが、オハイオ州出身のテデイ・サーカさん。宣教師の夫と

ともに来日し、避暑のためにこの地を訪れたのが、38年前のこと。ここを気に入ったテデイさんは、12年前に「セミリタイアしたい」と夫に告げ、七ヶ浜町に引っ越ししました。

「あまり地元の人とも交流がなかったんです」と話すテデイさんは、家族に囲まれてしばらく穏やかな生活を送っていました。そんなある日、東日本大震災が起こったのです。